

古文の世界に親しみ、登場人物の心情の推移を読み取る

－『源氏物語』を味わい、表現する－

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 古文
- 3 教材名 源氏物語
- 4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	①単元の目標		
	<p>ア 「源氏物語」の持つ魅力を味わい、古文の世界に親しみを感じようとしている。 (興味・関心・態度)</p> <p>イ 古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえ、まとめることができる。 (読む能力)</p> <p>ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解している。 (知識・理解)</p>		
②単元の目標設定の理由			
<p>・対象となる生徒たちの多くは古典の授業に対して受け身の姿勢が顕著である。そのため、板書を書き写すことに終始し、ともすれば正しい現代語訳が分かりさえすればいいという嫌いがある。そのため、授業は「知識・理解」に偏り、教師主動になりがちである。本文を正確に現代語訳するだけでなく、生徒が古文の世界に親しみを感じることに重きを置いた単元にしたい。</p> <p>また、日本史や世界史の授業と連携し、平安時代の日本の様子を理解したり楊貴妃について学んだりすることで、古文の世界を広げるきっかけとしたい。</p>			
③中心となる学習活動			
<p>・古文の内容に即して、新聞の一面記事を作成する。(東京書籍精選古典B、82～84ページ) (エ：古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする言語活動)</p>			
④言語活動の工夫			
<p>・古典Bの言語活動例エは「古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること」であり、この活動例を新聞の一面記事を作成することで実践した。</p> <p>・担当している生徒達が一人で新聞記事を作成することは困難であると感じる。しかしながら、三、四人のグループでそれを行うことを考えると、役割がないまま終わってしまう生徒がいることがイメージされる。したがって、本単元ではペアで新聞記事作成の活動を行う。</p> <p>・授業を受け、現代語訳を確認するに留まらず、新聞記事にその内容をまとめるというアウトプットの活動をし、成果物を相互評価することで授業のまとめとする。</p>			
⑤評価			
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	・「源氏物語」の持つ魅力を味わい、古文の世界に親しみを感じ、ペア活動に積極的に取り組んでいる。	観察(ペア活動) 点検(ノート、新聞記事) 生徒による相互評価	・現代語訳の確認をする。 ・どの箇所を記事にまとめるか助言する。
読む能力	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえて、まとめることができる。	観察(ペア活動) 点検(新聞記事) 生徒による相互評価	・正しく現代語訳を理解しているか確認する。
知識・理解	・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解することができる。	観察(机間指導、ペア活動) (発言) 定期考査	・机間指導をした際に個別で声を掛ける。

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 古文に対して苦手意識をもった生徒たちも積極的に授業に参加していた。 新聞記事にまとめるという形式を採ることで、以前より深く内容を理解しようという姿が見られた。 新聞記事にまとめることで、古文の世界に親しみを感じられる生徒が多かった。 二人一組で新聞記事の作成を行ったことで、作業のバランスが偏るペアも見られた。
アドバイス 及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事を作成する際に、条件を設けるとよい。 個人で新聞記事にまとめさせてもよい。 生徒がどの程度パソコンの操作をできるか確認しておく。
小中学校との 系統性	①（中学・2年・伝統的な言語文化に関する事項） （ア）古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。 ②（中学・3年・伝統的な言語文化に関する事項） （ア）歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

5 単元の学習概要（全6時間）

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○第一段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 源氏物語について知っていることを交流する。 教師による範読を聞いた後に音読の練習を行う。（教師の後に付いて読む）【ア】 第一段落の現代語訳を確認する。【ア】 *留意点 ・源氏物語については、日本史の授業での学習内容をあらかじめ確認しておく。	第一段落の内容を把握できる。【知】 ↓ 机間指導 重要古語などについては、定期考査で定着度を確認する。	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ 現代語訳がノートに書き写しているか確認する。
2	○第二段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師による範読を聞いた後に音読の練習を行う。（教師の後に付いて読む）【ア】 第二段落の現代語訳を確認する。【ア】 *留意点 ・楊貴妃の例については、世界史の授業での学習内容をあらかじめ確認しておく。	第二段落の内容を把握できる。【知】 ↓ 机間指導 重要古語などについては、定期考査で確認する。	机間指導をした際に個別で指導する。 ↓ 二段落までの内容が大まかに把握できているか、ペアで確認させる。
3	○第三・四段落の内容を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師による範読を聞いた後に音読の練習を行う。（教師の後に付いて読む）【ア】 第三、四段落の現代語訳を確認する。【ア】 	第三・四段落の内容を把握できる。【知】 ↓ 机間指導 重要古語などについては、定期考査で定着度合いを確認する。	机間指導の際に個別で声をかける。 ↓ 声をかけた生徒の様子を注意して観察する。
4	○新聞記事の構成をペアで考える。	<ul style="list-style-type: none"> 敬語に関する練習問題に取り組む。【ア】 新聞記事の作成の仕方について理解する。 ペアで新聞記事の構成を考える。【イ、ウ】 *留意点 ・次時までに構成を話し合っておくように指示する。	新聞記事の作成に積極的に参加しようとしている。【関】 ↓ グループ活動の観察 新聞記事の点検	ペアでの活動中に個別で声をかける。 ↓ 全ペア新聞記事が完成しているか確認しておく。
5	○新聞記事を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事の作成をペアで行う。【イ、ウ】 次時の発表の準備をペアで行う。【言エ】 	新聞記事の作成に積極的に取り組んでいる。【関】 ↓ 取組の様子の観察 新聞記事の点検	机間指導の際に個別で指導する。 ↓ 次時の最初に進捗状況の確認をする。

6 本時	○新聞記事の発表、相互評価をする。	・新聞記事の発表を行う。【イ、ウ】 【言エ】 ・新聞記事の相互評価をする。	新聞記事を作成し、それについて発表することができる。 【読】 ↓ 取組の様子の観察 発表の観察 新聞記事の点検	個別に声をかけをする。
---------	-------------------	---	--	-------------

6 学習指導案（第6時）

本時の位置	6時間目（全6時間）			
本時の学習目標	ア ペア活動に積極的に参加し、古文の世界に親しみを感じようとしている。 （関心・意欲・態度） イ 内容を構成や展開に即して的確に捉え、まとめることができる。 （知識・理解）			
事前の準備	①発表の仕方を指示しておく。 ②自己評価表 ③相互評価表 ④ペア活動を日頃から行っておく。			
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価	
導入 5分	<input type="checkbox"/> 前時までの復習と本時の課題を確認する。	①前時までの学習内容と本時の流れを確認する。 ②ペアごとに発表の最終確認をする。	・本時の流れを伝える際、本時の目標も確認する。 ・机間指導をして各ペアの様子を観察する。	
展開 30分	<input type="checkbox"/> ペアごとに新聞記事の発表をし、相互に評価し合う。	ペアごとに新聞記事の発表をし、お互いに評価し合う。	・相互評価の際には他のグループの発表の良い点の一つは書くようにし、非難するような内容にならないことを確認する。 ・発表に際して、工夫した点などを話すように指導しておく。	
		③ペアごとに新聞記事の発表をする。 ④発表の相互評価をする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 目標アに対する評価規準と評価方法 [規準] ペア活動に積極的に参加し、古文の世界に親しみを感じようとしている。 [方法] ・発表の観察 ・新聞記事の点検 [状況Cの生徒への手立て] ・授業終了後に個別で声をかける。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] 内容を構成や展開に即して的確に捉え、まとめることができる。 [方法] ・新聞記事の点検 ・発表の観察 ・定期考査の分析 [状況Cの生徒への手立て] ・授業後に気になる生徒に個別で声をかけ、内容を理解できているか確認する。 </div>	
まとめ 15分	<input type="checkbox"/> 本時のまとめと自己評価をする。	⑤本時の自己評価及び単元の振り返りをする。 ⑥次時の授業内容について確認する。	・時間に余裕があるようなら、振り返りの内容をペアで交流させる。 ・次時の授業内容について伝える。	